全国社会福祉教育セミナー
2026 in 東京

ソーシャルワーカー養成教育の目指す専門職像はどうあるべきか
～ これまでの到達点と今後の展望から考える ～

開催日時　2026年10月3日(土) 10:30～17:20
4日(日) 10:00～16:10
※両日とも開始・終了時間に若干の変更が生じる場合がございます。ご了承ください。

実施方法　参集＋【オンライン】当日リアルタイム生配信
11月6日（金）23:59までアーカイブ配信を実施します

対　　象　養成校の教職員・経営部局担当者、福祉事業者、
実習指導者、福祉の現任者、自治体関係者、大学院生、
その他関心のある方

お申込み・詳細はこちらから
お得な早割は
9月24日まで

参 加 費

会員校教職員	【早割】15,000円／【通常】18,000円
福祉従事者・自治体関係者・大学院生	【早割】　6,000円／【通常】10,000円
一般	20,000円
情報交換会	5,000円（別途オンラインショップよりお申込み）

と こ ろ　武蔵野大学　武蔵野キャンパス
東京都西東京市新町一丁目1番20号

アクセス　JR中央線
吉祥寺駅から
北口1番乗場よりバス15分「武蔵野大学」下車すぐ
三鷹駅から
北口3番乗場よりバス10分「武蔵野大学」下車すぐ
武蔵境駅から
北口3番乗場よりバス7分「武蔵野大学」下車すぐ
京王井の頭線
吉祥寺駅から
北口1番乗場よりバス15分　「武蔵野大学」下車すぐ
西武新宿線
田無駅から徒歩15分
または北口5番乗場よりバス5分
「至誠学舎東京前」下車 徒歩5分
西武池袋線
ひばりヶ丘駅から
南口1番乗場よりバス20分
「至誠学舎東京前」車 徒歩5分

主　催　日本ソーシャルワーク教育学校連盟
JAPANESE ASSOCIATION FOR SOCIAL WORK EDUCATION

協　力　武蔵野大学

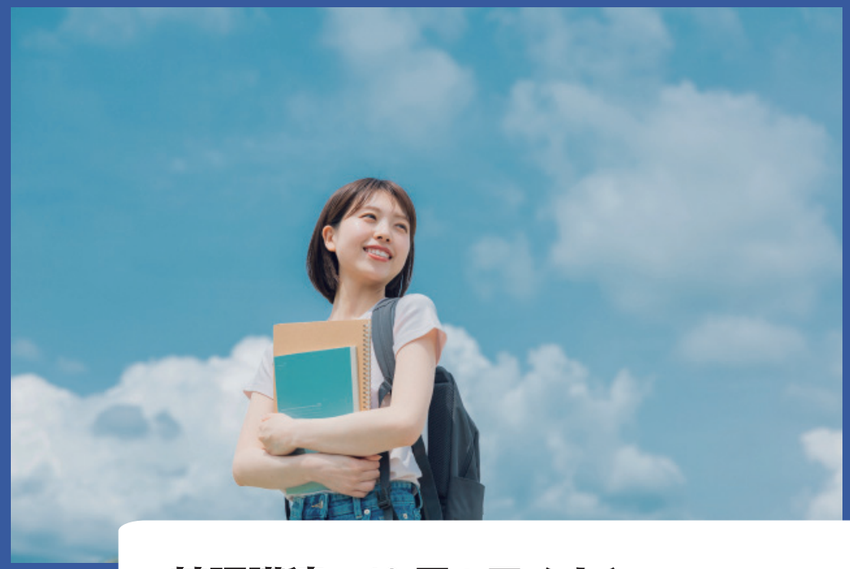
後　援（予定）　厚生労働省　文部科学省　法務省　こども家庭庁　社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
公益社団法人日本社会福祉士会　公益社団法人日本精神保健福祉士協会
公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会　特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会
認定社会福祉士認証・認定機構　ソーシャルケアサービス研究協議会　公益社団法人日本介護福祉士会
全国福祉高等学校長会　一般社団法人日本社会福祉学会　日本地域福祉学会　日本ソーシャルワーク学会
福祉系大学経営者協議会　一般財団法人日本ソーシャルワークセンター

ソ教連合格応援ナビゲーター
あなごちゃん

第四報

全国社会福祉教育セミナー
2026 in 東京

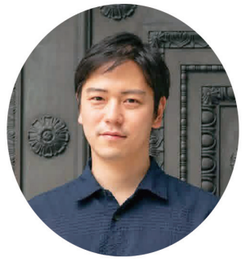
ソーシャルワーカー養成教育の目指す専門職像はどうあるべきか
～ これまでの到達点と今後の展望から考える ～



基調講演　10月3日（土）

私が福祉に惹かれ選んだ理由とこれから
～令和のソーシャルワークに求められること～

御代田（みよだ） 太一 氏（NPO法人全国地域生活支援ネットワーク副理事長）



講演&トークセッション　10月4日（日）

石橋　晶 氏
（文部科学省　高等教育局　大学振興課長）

ソーシャルワーカー養成教育の
質保証・質向上に向けた課題と展望
～高等教育政策の方向性と
新たな認証評価制度の動向から～

森　朋子 氏
（桐蔭横浜大学 学長／中央教育審議会委員、同・大学分科会委員，
教育・学習の質向上に向けた 新たな評価の在り方ワーキンググループ主査）

日時・場所

と　き　2026年10月3日(土) 10:20～17:20
4日(日) 10:00～16:10
※両日とも開始・終了時間に若干の変更が生じる場合がございます。ご了承ください。

ところ　武蔵野大学　武蔵野キャンパス
東京都西東京市新町一丁目1番20号

主催　日本ソーシャルワーク教育学校連盟
JAPANESE ASSOCIATION FOR SOCIAL WORK EDUCATION

開催趣旨

社会のあり方が大きく揺れ動くなかで、ソーシャルワーカー養成教育に求められる役割も、あらためて根本から問われている。少子高齢化の進行、福祉人材確保の困難、生活課題の複雑化・多様化など、我が国の社会が抱える課題は一層深まりを見せている。

他方で、戦争や紛争、災害、貧困、気候変動、移動の拡大、社会的分断の深刻化といった現代社会の諸相は、人びとの生活基盤と社会関係を揺るがし、ソーシャルワーク及びソーシャルワーカー養成教育の意義そのものを問い直している。

こうした時代において、ソーシャルワーカー養成教育は、各種制度や政策の変化に対応する知識・技術の伝達にとどまらず、ソーシャルワーク固有の理念と実践に根ざし、人びとの尊厳、権利、社会正義の実現という観点から、生活課題・社会課題を的確に捉え、多職種・多機関と協働し、地域や社会に働きかけることのできるソーシャルワーク専門職を育てる営みでなければならない。

また、高等教育のあり方をめぐって教育の質保証への要請が高まるなかで、ソーシャルワーカー養成教育もその要請に応答することが求められている。ソーシャルワーカー養成教育における質保証とは、単に制度的基準や形式的要件を満たすことではなく、「何ができる専門職を育てるのか」を明確にし、その教育内容・方法・成果を社会に対して説明可能なものとしていく営みである。社会福祉士・精神保健福祉士という国家資格の養成の先に、いかなるソーシャルワーカー像を描き、それを社会に発信していくのか。

本セミナーでは、これまでのソーシャルワーカー養成教育の到達点と今後の展望を踏まえながら、その専門職像と今後の養成教育の果たすべき役割について考える機会としたい。

実施方法・対象・参加費

実施方法　参集＋【オンライン】当日リアルタイム生配信
11月6日（金）23:59 までアーカイブ配信を実施します
お申込みの方は当日参集でのご参加の他、当日ライブ配信視聴・アーカイブ視聴のいずれも利用可能です。開催日にご都合がつかない場合もご参加いただけます！
なお、当日は生配信を視聴されている方から会場へ質問等を投稿いただけるよう準備中です。

対　　象　養成校の教職員・経営部局担当者、福祉事業者、実習指導者、福祉の現任者、自治体関係者、大学院生、その他関心のある方

参 加 費

会員校教職員	【早割】15,000円／【通常】18,000円
福祉従事者・自治体関係者・大学院生	【早割】 6,000円／【通常】10,000円
一般	20,000円
情報交換会	5,000円（別途オンラインショップよりお申込み）

お申込み・詳細はこちらから
お得な早割は 9月24日まで

1日目　10月3日（土）

会場【8号館 8301 教室】

10:20 〜 10:30　オープニング　開会のあいさつ

10:30 〜 12:00　【基調講演】
私が福祉に惹かれ選んだ理由とこれから
〜令和のソーシャルワークに求められること〜

東京大学で 2013 年から開講されている「障害者のリアルに迫るゼミ」で障害当事者に出会い、卒業後、救護施設での勤務を経験。現在に至るまでの歩みから、この時代にソーシャルワークに求められることは何かについて、ソーシャルワーク専門職養成教育を受けず、福祉業界に入った立場からの実体験を踏まえ語っていただきます。

御代田（みよた） 太一 氏（NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク 副理事長）

12:00 〜 13:00　昼休み
【ランチョンセミナー　ブレーンストーミング】◆8号館 8306 教室◆
日本のソーシャルワーク教育・研究は世界に向けて何を発信するか
〜ソーシャルワーク国際研究所の創設と目指すべき方向性〜

ソ教連 2026 年度事業計画では、『ソーシャルワーク国際研究所』を創設し、研究活動の強化とともに世界に通用するソーシャルワーク教育の確立を目指すこととしています。これからのソーシャルワーク教育は「何に着目し」「何を変え」「何を目指すのか」。国際的視座からソーシャルワークを捉え直すにあたり、参加者みなさまからの自由なアイディアを出し合う「アタマの準備運動」をします。
話題提供者：中村 和彦（北星学園大学学長／本連盟会長）

13:00 〜 14:40　【鼎談】
ソーシャルワーカー養成教育のアップデートを目指した養成校と事業者の新たな連携の構築〜ソ教連の新事業：事業者会員制度・インターンシップ情報基盤整備事業が描く新たな文化の醸成〜

今日、福祉人材確保は国家的な課題とされる一方、その処方箋は未だ模索の途上にあります。国の施策としては、都道府県ごとに福祉人材確保プラットホームの構築が目指されていますが、それがどのような姿となるのかも未知数といえます。そのようななか、本連盟はソーシャルワーカー養成教育の新たな展開として 2026 年度より事業者会員制度・インターンシップ情報基盤整備事業を開始します。この鼎談では、その趣旨と目指すもの、仕組みのイメージ、今後の展望と可能性について考えます。

麻那古（まなご）　直大氏（厚生労働省社会・援護局福祉基盤課　福祉人材確保対策室長）
大原 裕介（社会福祉法人ゆうゆう理事長／本連盟理事）
伊藤 新一郎（北星学園大学 教授／本連盟常務理事・事務局長）

14:50 〜 17:20　【ワークショップ】
日本版エデュケーショナル・ポリシーから考えるソーシャルワーカー養成教育の質保証
〜これからの専門職像をどう描くか〜

本連盟では、2024 年度から日本版のソーシャルワーク・エデュケーショナル・ポリシー（SWEP）の作成に向けた取り組みを開始し、今年度で 3 年目となります。このワークショップでは、ソーシャルワーカー養成教育の水準と専門職としての質を担保するためのエデュケーショナル・ポリシーの策定およびコンピテンシーの明確化に向け、SWEP チームから示された素案とその背景となるこれまでの作業内容を紹介した上で、参加者間で意見交換を行い、今後の専門職像について考えます。

進行：ソ教連 SWEP チーム
渡辺　裕一（武蔵野大学／本連盟理事）、浅野 貴博 氏（武蔵野大学）、南野 奈津子 氏（東洋大学）、木下 大生 氏（武蔵野大学）、伊藤 新一郎（北星学園大学／本連盟常務理事、事務局長）、與那嶺 司 氏（武庫川女子大学）、添田 正揮 氏（日本福祉大学）、清水 潤子 氏（武蔵野大学）、Vince Okada 氏（ハワイパシフィック大学）（順不同）

17:40 〜 19:15　情報交換会（別途お申込みください）　会場：7号館5階大会議室

質問の事前受付を実施しています！

一部プログラムにて、セッションテーマや事前に配布された資料、講師等への質問を事前に受け付けています。
ぜひ奮ってお寄せください。事前受付を実施しているプログラムの詳細、回答フォームは右記二次元コードよりご確認ください。

ソ教連合格応援ナビゲーター
あなこちゃん

2日目　10月4日（日）

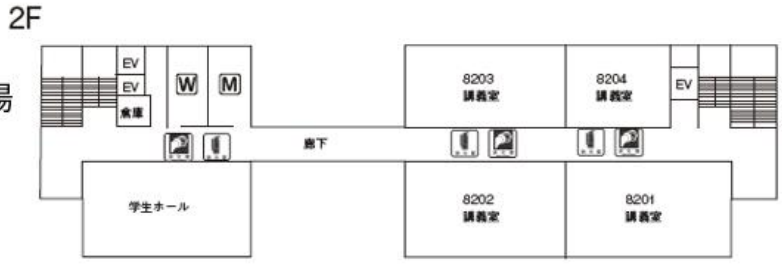
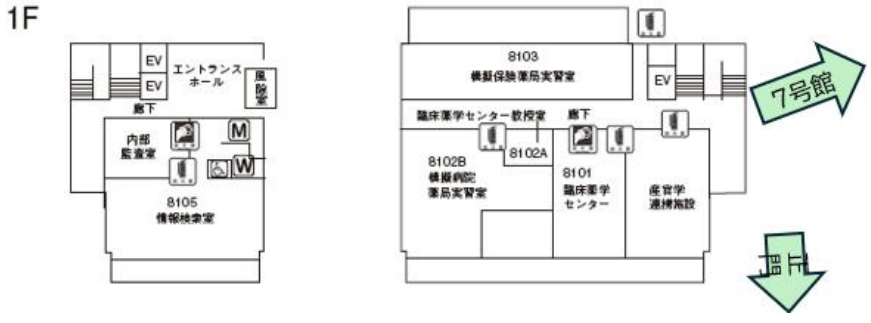
	A会場【8号館 8301 教室】 ソーシャルワーカー養成教育の 質について考える	B会場【8号館 8302 教室】 送り出す学校、迎え入れる現場 ―福祉人材をつなぐ接点づくり
10:00 〜 12:00	**第1部　講演&トークセッション** **ソーシャルワーカー養成教育の質保証・質向上に向けた課題と展望** **〜高等教育政策の方向性と新たな認証評価制度の動向から〜** 中教審「知の総和」答申では、学修者本位の教育や教育機関と地域との連携が求められています。2030 年度から開始が見込まれる新たな評価制度に向けた議論も進み、教育の質保証・向上のためには「養成する人材像」と「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の策定・改善や、教育課程や体制づくり、学修成果の把握・評価とそれらを踏まえて改善を行っていくことが重要とされています。本プログラムでは、今後の高等教育政策の方向性を踏まえつつ、「次の時代のソーシャルワーカー養成教育」の課題と目指すべき方向性について考えます。 石橋　晶 氏（文部科学省　高等教育局　大学振興課長） 森　朋子 氏（桐蔭横浜大学 学長／中央教育審議会委員、同・大学分科会委員、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ主査） 進行：中村 和彦（北星学園大学 学長／本連盟会長）	**第1部　パネルディスカッション** **学校の出口と採用の入口を近づける** **〜福祉人材確保のための接点づくり〜** ソーシャルワーカー養成課程で学んだ学生が、必ずしも福祉分野に就職するとは限らない時代において、学校から新卒者が巣立つ「出口」と、事業所が採用し迎え入れる「入口」との距離をどのように近づけていくかは、福祉人材確保における重要な課題となっています。 本プログラムでは、学生の進路選択を支える学校側の取組と、採用につなげるための法人側の工夫を共有します。新卒者を送り出す側と、採用したい側の双方の視点から、福祉人材を現場につなぐ接点づくり・仕組みづくりについて考えます。 佐藤 佳子（佐野日本大学短期大学 准教授／本連盟理事） 笠原 駿介 氏（関西福祉大学 キャリア開発課） 川俣 聡司 氏（社会福祉法人愛光園 理事長） 櫛田 啓 氏（社会福祉法人みねやま福祉会 理事長） 進行：仲井 達哉（川崎医療福祉大学 准教授／本連盟理事）
12:00 〜 13:00	昼休み	
13:00 〜 14:40	**第2部　パネルディスカッション** **ソーシャルワーカー養成教育における養成校と現場の役割分担と連続性** 社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育を修了し国家資格を得た学生は、専門教育を受けたソーシャルワーク専門職として社会から期待されています。しかし現状では、卒業時に備えておくべき価値・知識・技術の「ミニマムライン」について、教育と現場の双方で合意された明確な基準は存在していません。客観的な指標は実質的に「国家試験の合否のみであり、養成教育の到達点や現場への接続は、養成校や現場の経験則に委ねられているのが実情です。 教育側が社会的な説明責任として何を最低限担保し、どのような資質・力量を備えた学生を実践現場へ送り出すのか。そして現場は新卒者・現任者への研修プログラムの内容と水準をどのように構成していくことができるのか。養成教育は両者をつなぐ「結節点」を明確にする必要があります。 本プログラムでは、1 日目の議論を踏まえ、この課題を教育・実践双方の立場から具体的に問い直します。養成教育が社会からの要請に応えうるソーシャルワーク専門職を送り出し、現場での継続的な成長・研鑽を可能とするために、養成校と現場との役割分担と今まで以上の連携・協働を考え、その連続性の在り方を探ります。 浅野 貴博 氏（武蔵野大学 准教授） 秋山 雅代 氏（日本福祉教育専門学校 通学事業部 社会福祉士養成学科（昼間部）学科長） 山本 繁樹 氏（立川市社会福祉協議会 総合相談支援課 課長） 大塚 直子 氏（井之頭病院 連携相談センター相談室 室長） 進行：髙良 麻子（法政大学 教授／本連盟副会長）	**第2部　パネルディスカッション** **福祉への就職、学生はどう見てる？** **―アンケート結果から聞く、学生・若手卒業生のリアル** ソーシャルワーカー養成課程で学ぶ学生は、卒業後の進路をどのように考え、福祉分野への就職をどのように受け止めているのでしょうか。 本プログラムでは、本連盟が実施する学生（模試受験者）2 万 8 千人を対象とした進路・就職等意向調査の就職関連データを手がかりに、実習を終えた学生、就職活動中の学生、福祉現場で働き始めた卒業生の声を聞きます。数字だけでは見えにくい、実習での経験、就職活動での迷い、福祉職への期待や不安を公開インタビュー形式で掘り下げ、養成校と事業者が、学生に福祉分野で働くことを前向きに選んでもらうために何ができるのかを考えます。 社会福祉を学ぶ学生・卒業生のみなさま コメンテーター： 川俣 聡司 氏（社会福祉法人愛光園 理事長） 伊藤 新一郎（北星学園大学 教授／本連盟常務理事・事務局長） 進行：加藤 雅江 氏（杏林大学 教授）
14:50 〜 16:00	**教育講演** **AI が「普通」になる時代の学びとは〜便利さの先にある判断力・倫理・人間理解〜** 生成 AI は、学生の学び方、レポート作成、卒業研究、就職活動、教員による学修支援、対人支援の現場など、学びと実践のさまざまな場面に影響を及ぼし始めています。本講演では、生成 AI の専門的知見をふまえ、AI が当たり前に使われる時代に、ソーシャルワーカー養成教育に携わる私たちが何を変え、何を守るべきかを考える機会とします。 鈴木 大助 氏（武蔵野大学　スマートインテリジェンスセンター（MU-SIC）　教授） 司会：名城 健二（沖縄大学／本連盟常務理事）	
16:00 〜 16:10	クロージング　閉会のあいさつ	

■キャンパスマップ（武蔵野キャンパス）

■教室配置図（8号館）

8301教室
:1日目会場
2日目A会場

8302教室
:2日目B会場

8306教室
:1日目　ランチョンセミナー会場

3階廊下
:受付、出店、自由配布